

ορπανος

東北学院大学 広報誌

ウーラノス

特集 NEW WAVE T.G.U.

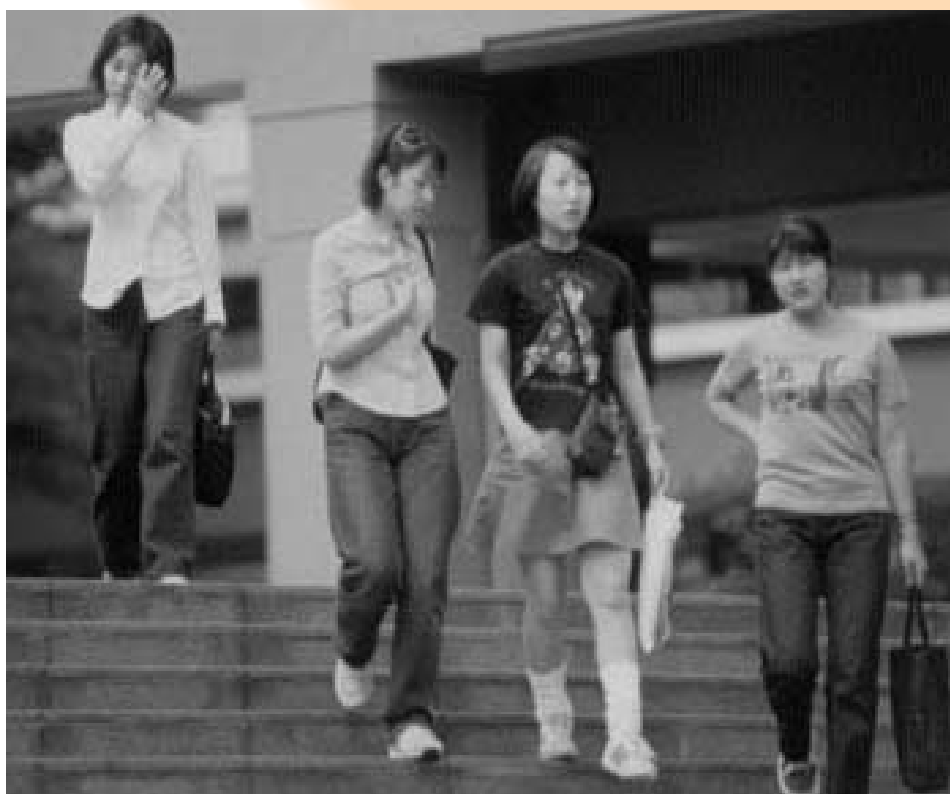
『大学設置50周年』

東北学院大学の改革の方向

「本学の今後の教育と研究の改革についての提案」に際して

東北学院大学設置50周年記念事業の紹介

『ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)』は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる(マタイ 13: 31-32)」と譬えを語っています。この箇所にも οὐρανός が用いられています。



CONTENTS

- 学生たちは、今
- 大学と家庭を結ぶ
- 学長室より
- 大学院より
- 学部より
- 特色ある研究
- 研究所・センターより
- 国際交流センターより
- 図書館より
- 就職部・入試センターより...



21世紀通信

Vol.5

OCTOBER, 2000

大学広報誌『ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)』は、東北学院大学設置50周年を記念して年3回発行しております。東北学院大学は、キリスト教私立大学です。キリスト教の理念を基盤にしつつ、専門分野の知識や技術、また、教養のかかわる分野の教育・研究を行っております。世界の文化と福祉に貢献し得る人材を養成する大学として、さらに努力を重ねてゆきたいと願っております。



特集 東北学院大学の 改革の方向

—「本学の今後の教育と研究の改革についての提案」に際して—

学長 倉松 功



新制大学

1991年の大学設置基準の改定いわゆる大綱化は、戦後発足した新制大学に根本的な影響を与えました。その理由は、約40年続いた新制大学の教育制度そのものの否定であったからです。新制大学というのは、アメリカのリベラル・アーツカレッジとユニヴァーシティを一緒にしたものでした。戦前の日本では、旧制度の高等学校、本学のような旧高等専門学校、旧帝大の大

学予科はすべてリベラル・アーツカレッジで、ユニヴァーシティは旧帝大と慶応、立教、早稲田といったごく少数の旧私大でしかありませんでした。それら二種の大学を一つにして四年制の新制大学にしたのです。それが本学が大学となった頃の制度でした。そのように、もともと日本の高等教育は、大学院を持たない三年制の教養大学と、教養教育後の専門教育を行うことを目的とした三年制の大学は別々であったのです。その典型が旧

制高校、旧帝大でした。その二つを新制大学は一つにして、四年間の中に前半二年で教養教育を、後半二年で専門教育ということにしたのです。また、6・3・3・4の現制度の教育によれば、三年間の中学と三年間の高校の中等教育六年間で大学での高等教育への準備と教養教育の一部を行いました。そして大学に入学後引き続いて教養教育の続きを二年間学ぶことになっていました。それゆえ本学でも、一般教育（課程）と称して、一、二年で外国語、人文、自然、保健体育などに関係する科目の履修していたのです。

他方、新制大学以前の東北学院の高等（専門）部は、既述のように教養大学でした。その意味では、戦前の東北学院にせよ、新制大学の本学にせよ、創立以来の教養大学としての教育機関であったと言えます。もちろん、その間、新制大学においては、大学院で研究者を養成しなかったのではありません。しかし、院生の数は微々たるものでしかなかったのです。



大学設置基準の改訂

そのような中での大学設置基準の改訂でした。それによって、教養教育科目と専門教育科目の区別は撤廃され、それぞれの学科の教育目的に即し、専門教育の目的に焦点を合わせた科目を基礎教育科目あるいは導入科目として配置することが可能になったのです。(一方で中等教育での教養教育は手をつけずに、受験教育の中で放置されたままです。) その結果、実業専門性の高い学科、卒業後の特定専門職との結び付きの強い学科・専攻は、一層職業予備教育が容易になりました。この傾向は大学教育に対して従来の資格と共にプロフェッショナルな付加価値を求める学生、企業、一般社会の要求にも応えるものであったのです。さらにこの設置基準の大綱化は、文化史的に見れば、わが国全体のグローバル化時代への対応と直接関係したものでした。すなわち、日本の社会の構造的危機 官中心の価値観、公的機関・法人組織の私物化、護送船団方式の崩壊、アカウントビリティの欠如、アメリカのITを中心とする技術革新、市場原理と自由競争への対応、グローバル化と日本社会の停滞・閉塞感、新たな経済的繁栄の待望とも関係していたと思われる。そして、その後のバブル崩壊は、こうした傾向に一層弾みをつけるものでした。

しかし、これらの諸現象と共に高等教育に対しても、グローバル化・情報化が、具体的に英語やITの技能としての重要性を増加させました。それと共に、他方で、受験戦争といわれる教育問題が一層深刻な影響を与えてい



ます。初等・中等教育が高等教育への準備であるよりも、偏差値への準備であるよりも、偏差値の高い大学への入学準備としての性格を強めることよによって、履修科目の偏重が顕著になりました。この傾向に拍車をかけたのが、大学の激増と就学人口の減少です。少々単純化して言えば、英語やITがスキルとして必要性を増すと共に、スキル以上の教養が要求され、グローバル化時代におけるグローバルな教養が不可欠なものとなっていることです。他方、高等教育への準備不足は、大学入学後の教養教育のみではなく、大学の教育の在り方それ自体に、授業運営・教授方法に真剣な反省・問いをもたらすことになったのです。

本学の今後の教育改革

あらためて申し上げるまでもなく、本学はキリスト教大学で、私学としてその建学の精神を発信する自由が与えられています。教養(人間形成) カルチャー・ビルドアップ 教育は、聖書の有するグローバルな倫理的、

文化的価値観を基本にしなければなりません。その上に立って、自立した個人として判断し行動できる人材の育成、自由平等を基礎とした隣人愛の奉仕的社会の担い手の育成に務めるといって建学以来の伝統を堅持し、さらに展開させていきたいものと思います。

グローバル化時代を生きるスキルとして、英語・ITの教育は更に充実させなければなりません。東北アジアにおける日本の、東北にある大学として、中国語の他に朝鮮語、ロシア語の授業も必要なのではないでしょうか。グローバル化の次代を担う学生のために、全学生の1%ほどの交換留学生を派遣し、受け入れを可能とする方策を打ち立てたいと思います。そのためにも外国人学生に対する日本語とその文化を教える制度を持たなければなりません。各学部日本語で講義できる優れた外国人教員の採用も必要かもしれません。

しかし、最も基礎的なこと、緊急のこととして眼前にあるのは、



授業内容・方法の改善と充実です。既述のように。大学教育を受ける十分な準備のない学生の増加の中であって、教育そのものを一層重視し、授業方法の改善充実(ファカルティ・ディヴェロップメント)を図らなければなりません。そのために既に行われているシラバス、学生による授業評価の改善と結果の活用、成績評価の客観的基準、例えばGPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)の導入などが考えられます。それと共に授業の充実・効率、国際交流、更に最近の就職活動などを考えると、約10年前に提案したセメスター制の導入ないしはセメスター完結型の科目の増加を願わずにはいられません。

専門教育と職業予備教育へのニーズも顕著です。とりわけその専攻がどのような特定専門職と結びついているのか。それが明確である場合は、学部教育と大学院教育との効果的連結を考え易いでしょう。しかし、文化系の多くの学部の学生や、将来の職業選択を幅広く考えている学生には、主専攻(メジャー)と副専攻(マイナー)制の導入、学部をこえた学科専攻の単位読み換え・互換の更なる推進が必要

かもしれません。

以上のような教育(授業)の改善は、それらに努力する教員の教育業績とも関連します。授業ソフトの開発、優れた教科書などを、少なくとも昇進の際の評価の一つとして用いることは可能ではないでしょうか。

大学教員の3つの職務のうち、教育を除く研究、行政について一言しますと、すでに教員の大学昇進規程の改革、業績報告書の刊行がなされました。行政については、すべての行政についてしかるべき評価がなされなければならないという前提で諮問しています。

大学院の改革については、多数の社会人の受け入れと共に大学院のコース分け、種別化が課題となっています。種別化とは、

研究者養成(博士課程後期)、高度専門職の養成・資格取得、教養・リカレントなどを目的を明確にすることによってなされます。これらに対応した大学院担当者の配置と相互協力も教員の専門性役割分担、適正規模のこともあり、不可欠です。すなわち、研究者養成コースには合教授担当教授および特任教授委嘱が考えられます。税理士養成、専修免許状取得、連携ロースクール、ビジネススクール(事業後継者養成コース)などには多数の学外専門家、有識者の協力を得なければなりません。教養・リカレントコースには全教員の参加が必要でしょう。

以上、大学設置基準改訂いわゆる大綱化以後約10年を経過して、今後本学の改革の方向について、教学面に焦点をあてて所見を記しました。学内外のご意見を伺えれば幸いです。

COLUMN WELL

就職実践模擬試験の効果



企業の雇用形態や採用方法が変化する中、就職部では、早い時期から将来の進路について明確な目的意識をもって学生生活を送るよう、指導しています。特に三年次からは、本格的な就職活動の行事がスタートします。その中でも、昨年までの『就職のための基礎試験』にかわり、『就職実践模擬試験』を全員を対象として、受験費用の全額を大学負担で実施することにしました。これは「就職に対する意識の高揚と一般常識からSPI対策まで幅広い試験対策のため」に実施するものです。学生の受験結果から各項目の得点を分析し、平均点や志望業種選択の講評と個別アドバイスが得られます。これは一般企業のみならず、公務員受験対策にも活用できます。

『大学シンボルマークが決定』



大学設置50周年を記念して募集しておりましたシンボルマークが決定しました。

今回のシンボルマークの作成にあたっては、本学の個性を明確にして、自己確認するとともに、大学から発信するすべての情報において個性を表現し、イメージの向上を目指したUI (University Identity) 活動の一環として行ったものです。

募集に際しては、学生や同窓生はもとより全国から338点に及ぶ作品が寄せられ、学生による人気投票など審査の結果、東京都の丸山道則さんの作品に決まりました。同時に大学名の書体(ロゴ)も新たに制定いたしました。

今後は、各種の事業を展開する際に効果的に用いていくことにしております。

『UI活動に関する報告書の刊行』

21世紀に向けて“東北学院大学をいかによくするか”という大きなテーマを掲げ、社会人、高校生、大学生、教職員によるワークショップとアンケートを50周年記念事業として実施してきましたが、この度、その中で述べられた意見をまとめた『UI活動に関する報告書』を刊行いたしました。報告書では、教員に関する事項、職員に関する事項、大学運営に関する事項に分けて、それぞれの課題を抽出しております。

大学は社会的存在として活動状況を明確に示し、評価を受けることが求められております。そこから個性化、質的充実反映させていくことが課題とされておりますが、本報告書を活用し、教職員一人ひとりが自らの課題として各種の取り組みに反映させていくことにしております。

『地域連携シンポジウムの開催』

大学設置50周年記念事業の最後を飾る「地域連携シンポジウム」を開催いたします。これからの大学のあり方や本学が仙台圏にあって、どのような役割を果たすべきか、行政、民間企業、大学関係者などそれぞれの立場からお話をさせていただきます。

テーマ『産・官・学の連携と地域との共生をめざして』

日時：平成12年11月18日(土)13時30分～15時30分

場所：本学土樋キャンパス8号館(5階)押川記念ホール

講演者：樋口 美智子 氏(宮城県環境生活部次長)

菊地 忠勝 氏(宮城県労働者福祉協議会会長)

新川 達郎 氏(同志社大学総合政策科学研究科教授)

阿見 孝雄 氏(NPO地域・大学連携機構代表理事)

司会：中鉢 憲賢 (本学工学部長)

肌で感じたドイツ

菅原 正広さん

文学部史学科4年
宮城県白石高等学校卒業

留学先と留学期間、またそこに留学した動機を教えてください。

ドイツのヘッセン州、フランクフルトの近くのヴィースバーデン大学で、2年生の9月から3年生の8月までの1年間留学しました。目的は、ドイツを中心としたヨーロッパの歴史やドイツ語を勉強するためです。

留学で得たものは何ですか。

他の交換留学生と交流できたことです。普段はドイツ語でコミュニケーションをとっていますが、ヨーロッパには様々な言語が混在していることをあらためて実感しました。ドイツ以外の国にも行きましたが、中でもウィーン

は昔ながらの街並みで、歴史を感じることができました。

留学中に苦労したことはありますか。

ドイツ語は、最初の頃は挨拶程度であればできると思っていましたが、実際に人と対面すると緊張してしまい、とても苦労しました。また、主食のパンが日本のパンと違って固くて苦く、口に運ぶのが大変でした。留学生のヘッセン州では、ジャガイモ、ウインナー、キャベツの酢漬けのようなものがよく食卓に並びました。北の方に行くとも魚料理もできるようです。

日本とドイツの価値観などの相違はありましたか。

日本人よりもドイツの方が全体的に見て節約を心掛けるというような印象を受けました。また、考え方が全体を大きくつかむという感じで、日本人のほうが細かいという感じがしました。



留学で得たものをこれからどのように生かしていきたいですか。

留学で経験したことを大学院に進学してさらに生かしていきたいと考えています。また、グローバルな視野でドイツ以外の国も研究したいと考えています。できれば、優れた教授陣がいて文献も豊富にある本学の大学院に進学したいと思います。これから留学を希望している学生には、様々な目的があると思いますが、肌で感じたもの、脳裏に焼きついたものを何か一つ自分のものにして日本に持ち帰ってほしいと思います。

Interview

学生たちは、今

Interview

就職という目的意識

伊藤 祐子さん

法学部法律学科4年
宮城県仙台白百合学園高等学校卒業



大学卒業後の進路を考えたのはいつ頃ですか。

高校時代から公務員試験を受験しようと考えており、大学でも法律の勉強をして公務員になろうと考えていまし

た。民間企業についての情報を収集しはじめたのは大学3年生の秋で、就職セミナーやガイダンスが始まり、周囲も動き出した頃です。

今回内定した企業は、宮城県内でも有名な企業ですが、公務員から民間企業に志望が変わった理由は何ですか。

本学主催の公務員講座を受講するなど、公務員受験に備えていましたが、試験が難関になってきていることなどから、よく考えた結果、民間企業に決めました。民間企業でも筆記試験がありますので、今までの努力は無駄にはなりません。また、法学部では、各種法律はもちろんのこと、事例に対する考え方のプロセスを学びました。この基本的な学びが、将来どのような仕事でも役立つと考えるようになりました。大学生生活を通して、自分の就職に対する意識が大きく変わりました。

就職活動している上で、男女間の格差は感じましたか。

訪問した会社や業種により違いはありますが、自分の内定した企業は男女間の格差はまったくなく、能力主義を採用しています。他の企業では、女性は営業ではなく事務職でしか採用しないという企業もありました。

在学中の様々な経験を今後どのように生かしていきたいですか。また、本学の後輩たちにアドバイスを一言お願いします。

目的意識を持って行動する4年間、遊んで暮らす4年間であれば、目的意識を持って行動する方が絶対にいいと思います。そこには必ず結果があらわれてきますし、得たことは、大学の授業やテストで終わるのではなく、これからの生活にも関わってきます。社会人になっても、目的意識を持っていきたいと思っています。本学の学生の皆さんも、是非、目的意識を持って充実した大学生活を送ってほしいと思います。

大学と家庭をむすぶ

— 後援会総会を開催 —



本学では、在学生のご父母を会員とする「東北学院大学後援会」を組織しています。

後援会は、大学と家庭の連携を密接にし、相互の理解と協力によって、学生各位が円滑に大学生活を送ることができるよう願って、昭和24年に設置しました。

後援会では、毎年7月に「後援会総会」を、また、8月から9月にかけて宮城県を除く北海道から浜松までの34地区で「地区後援会」を実施しています。

今年度の「後援会総会」は、7月8日(土)に泉キャンパスを会場として開催いたしました。当

日はあいにくの台風による悪天候にもかかわらず、ご夫妻での参加も含め約800名のご父母にお集まりいただきました。

「後援会総会」

では、平成11年度庶務報告・会計報告が行われ、平成12年度予算についても原案どおり承認されました。なお、任期を迎えた村松巖会長が満場一致で再任されました。

また、本学の教育内容はもとより、学生生活全般にわたって理解を深めていただくために、「後援会総会」にあわせて各種の大学開放プログラムを設けています。「学科(専攻)別コーナー」では、学科カリキュラムの説明を中心に、各学科の教員が直接ご父母の皆様との懇談を持ち、様々な疑問に答え、相互の理解を深めてい

ます。さらに、成績や進路に関する質問にお答えする教務部・学生部・就職部の「相談コーナー」を設置して、ご父母の皆様とのコミュニケーションを多く持つことができるようにしており、活発な質疑応答が行われました。

当日は図書館や情報処理センターなどの教育施設や体育館でクラブ活動の見学なども賑わい、大学礼拝への出席にはじまるプログラムに、ほぼ一日をかけてご出席くださった熱心なご父母もあって、「後援会総会」を通して大学全体で教育のあり方を考える機会となりました。



COLUMN WELL

東北弁マクベス海外公演で快挙

教養学部の下館教授が主宰するシェイクスピア・カンパニーは、東北の言葉と風土に翻案したシェイクスピア劇を上演し続け、関西や東京中心の日本演劇界に新風を起こしています。東北学院大学の卒業生が核となっているこの劇団は、この夏創設7年目を迎えて、世界で最も大規模かつ伝統のあるエディンバラ芸能祭に参加するという新しい冒険に挑みました。参加は自由ですが、いい劇場の確保と厳しい劇評、集客という三つの壁のために成功させるのが非常に難しいといわれています。しかし、通訳、字幕なしの大胆ともいえる東北弁『マクベス』は、屈指の劇場を確保し、劇評からは「説得力のある翻案、ダイナミックで完璧な演出、ぞくぞくさせる魔女達」(マコッツマン)と高い評価を獲得、最終日にはチケットが売り切れになり、ドイツの劇場からは招待公演の声がかかるほどの大成功をおさめました。劇場入口では、一ノ蔵吟醸酒も大活躍し、初日には渡欧中の倉松学長が応援に駆けつけられ、卒業生を励まされました。なお、この模様は、TVイーハートブ(東日本放送)、ニュースステーション(テレビ朝日)、ロイター通信を通して、国内外に放映されています。



『ダラムの町と大学』

学長 倉松 功

夏のヨーロッパ旅行の途中、今春協定を結んだばかりのイギリスのダラム大学を訪ねました。

三方を川に囲まれた小高い丘の上のダラムの町は、11世紀の始め、聖カスバートの骨骸を守るために造られた城塞の町でした。その後1836年まで主教が領主として英国国王から軍事・行政・裁判権を委ねられていました。その面影は、主教座聖堂、お城と城壁に沿った町並みに今もよく残っています。それだけで観光客の眼を楽しませてくれるのに充分です。

ダラム大学は、1832年に、オックスフォード、ケンブリッジに次ぐ英国第3番目の大学として、主教と主教座聖堂参事会によって設立されました。現在は14のカレッジを教え、学生数は約9千人で、その内学部7千人、大学院2千人、そして約10%が外国人留学生です。そのような総合大学(ユニヴァー



シティ)の最初のカレッジがお城を利用したユニヴァーシティ・カレッジです。ところで、それらのカレッジは、オックスフォード、ケンブリッジとは全く異なります。

英国のカレッジには3種類あります。オックスフォードケンブリッジを第1の種類とするとそれは全寮制で、カレッジでは学寮でありながら部分的に学部や大学院の授業を行っている

ものです。第2の種類はダラムで、それは純粋な学寮です。従って、ダラムの場合オックスフォード、ケンブリッジとは異なるカレッジなのです。ダラムのカレッジは単純に寮なのです。教授の寮長の下で、ダラム大学(ユニヴァーシティ)の各学部の学生が起居を共にしています。そこには図書館、食堂はもちろん、礼拝堂まであります。文字通り、このカレッジは、学びながら聖書の教えに共に導かれることを目的とした人間形成の教育寮ということができるといえるでしょう。例えば、この大学の工学部は東芝を含め世界の有名企業から寄付を受けているという点でも秀れた研究をしていると思われます。しかし、大学の基本は人間形成(教養)を重視している教養大学という側面を持っているということが出来ます。

教養を重視するという点で、大学の国際交流の関係者から印象深い話を伺いました。それは修士や博士の学位授与にあたって、単にそれぞれの専門についての知識・



技能だけを問うてはいないということでした。思想、文学、芸術などヨーロッパ文化についての基本的な教養を身につけてほしいということでした。学寮としてのカレッジも運営の理念とも符号する考えとして興味深く思いました。それがまた、この大学が本学との交流においても、日本語とその背景の日本文化についての組織的カリキュラムを望んでいることにもあらわれています。その点は、ダラム大学だけでなく、諸外国の大学が本学との交流に関して希望しているものであることは関係者のよく知る所でしょう。

最後に、英国の第3の種類大学とは、ロンドン大学のように、その下で緩い連合体を形成するカレッジ、単科学部・大学院を有する独立した総合大学です。

大学院より

Graduate School Info.

文学研究科

専攻内の多様性を生かして

伝統のある英語・英文学専攻、新生のヨーロッパ文化史専攻およびアジア文化史専攻と、文学研究科には3つの専攻が揃っています。専攻は3つですが、自身の多様性に注目してください。英語・英文学には、中世・近世・近代・現代の時代別英文学を軸に、近代・現代のアメリカ文学。それと英語学・言語学・英語史に、英語教育学が加わります。ヨーロッパ文化史ではキリスト教史と欧米史を軸に、古代地中海世界と初期キリスト教、中世ヨーロッパ社会、ドイツ・スイス・イギリスの宗教改革、そしてアメリカ史。アジアの文化史はその領域多様性としては著しい特徴を持っています。日本・中国の各時代史と人文・自然環境論を軸に、考古学・民俗学・文化人類学を備え、さらに中国から専門家を招聘しています。以上述べた各領域には優れた教員が配置されていることは言うまでもありません。この多様性の特徴を生かして、創造的な人材を育成しようというのが文学研究科です。

法学研究科

大学院入学説明会を開催

本研究科では、7月21日、初めての試みとして大学院入学説明会を開催しました。準備期間がわずかであったにもかかわらず、予想を上回る学部学生が参加しました。法学研究科長が「大学院で学ぶ意義(研究者養成と専門職業人養成)」について話した後、博士前期課程の入学状況と修了後の進路、入試についての説明などが行われました。説明終了後、「研究計画書はどのように書くのか」、「ロー・スクール問題への対応は?」などの活発な質問が出されました。「大学院を身近に感じる」機会になったようです。

今後も個別の説明に応じますので、希望者は大学院事務室(TEL.022-264-6365)を通して申し込んでください。

工学研究科

グローバル化を進める工学研究科

近年、学術研究のグローバルネットワーク化の推進が叫ばれています。工学研究科ではできるだけ多くの国の研究者たちと交流の機会を持つようになっています。今年も、大学院の客員教授としてベラルーシ国立科学アカデミーのアイゴール・ヴォイテンコ教授を招聘していますが、7月6日には大学院と学部の学生を対象に「光ネットワーク用音響型ファイバー光変調器とセンサ」という題目で特別講演をしていただきました。21世紀のIT技術を支える光通信技術について、旧ソ連圏の熱心な研究現状を伺い、我々も安閑としていられないことを思い知らされました。

7月14日には、工学部環境防災工学研究所主催で、6名の大学院生による研究発表と、同研究所の上西玄一客員教授による「我国における石油エネルギーの安定供給に対する取り組み」というテーマの特別講演がありました。大学院生の発表は修士研究の中間報告を兼ねており、熱心な質疑応答が繰り広げられました。7月26日には、協定校であるドイツのヴィースバーデン大学よりハインツ・エカルト工学部長が来学されました。エカルト先生は来年度の客員教授に招聘する予定になっており、環境工学が専門である先生の来年の講義が期待されます。

経済学研究科

専門的知識を身につけた産業人育成

大学院生は前期・後期あわせて38人。そのうち社会人は18名で47%を占めます。その多くは商学・経営学・会計学・会計学系の院生で、経済学関連の諸領域に加え、租税論特講、金融論特講、経営学特講、経営組織論特講、経営史特講、経営労務論特講、国際経営論特講、財務会計論特講、管理会計論特講、監査論特講、税務会計論特講、国際会計論特講、会計情報システム論特講、貿易論特講、保険論特講、マーケティング特講、商品学特講、流通論特講、商業政策論特講、特別講義、演習を昼夜開講制で履修しています。今後は経営情報・起業経営・国際経営系の科目を開講し、研究者養成だけでなく、ビジネス・スクールとして、高度の専門的知識を身につけた産業育成を目指します。

人間情報学研究科

『大学院アングラー社会情報学の演習と論文指導』

大学院においては「演習」こそが花であるといえます。4月に演習の内容・形式の説明に続けて、日程と報告者の割り当てが決まり、それに従って演習は展開されます。それは社会人院生に配慮して、土曜日の午後から夕方にかけて行われます。教員と院生はほぼ同数。一人の報告に対して、それぞれの立場から指導がなされ、また院生も活発に討論に参加するように、出席者全員の交流が見られ、最も緊張し、充実した一時といえます。また、テーマに応じた緻密な論文指導が個別になされており、平成11年3月に学術博士第1号が誕生しました。続いての博士号取得者が待たれます。

なお院生は研究室において、各自が最新のパソコンを使用できるのも人間情報学ならではのといえるでしょう。

『キリスト教学科が新しくなります』

これまで通称として用いていた片仮名表記の「キリスト教学科」が、来年度からそのまま正式名称になります。

キリスト教学科は、1964年、伝道者養成機関として設立されました。この36年の間に、諸教会の祈りに支えられながら、教会、学校、福祉施設等の現場に多くの卒業生を送ることができました。今後もこの建学科の精神にしっかりと立ち、聖書に基づく神学教育を展開していきたいと考えています。

来年度から、伝道者志望以外の方々もキリスト教学科において学ぶことができるようになりました。これは、「キリスト教を勉強してみたいのですが、私はまだ洗礼を受けていません。なんとかならないでしょうか」との願いに答えようというものです。多くの方々の応募を期待しています。

入試方法も多様になり、受験会場も増えました。従来のキリスト者推薦(定員3名)、一般入学試験・前期日程(どなたでも出願できます。定員3名)の



他に、AO入学試験(どなたでも出願できます。定員3名)、一般入学試験・後期日程(どなたでも出願できます。定員1名)を導入しました。

「キリスト教神学」は「大人の学問」です。多様な社会経験、人生経験を持つ方々、そして納得のいく生き方を目指す方々の決断を期待しています。なお、すでに専門学校・短期大学・大学等において必要単位を修得された方には、上記の入学試験の他に編入学試験の道も開かれています。

2001年4月より経済学部経営学科へ改称

商学科は、2001年4月から経営学科と学科名を改称することになりました。商学科の前身は、1918(大正7)年に設立された専門部商科です。1964(昭和39)年に経済学部商学科として独立、設置されました。その後は、商学科は、商学系、経営学系、会計学系の高度の専門的知識を修めた人材養成に努め、社会の要望に応えてきました。また、学問研究の成果をも取り入れ、数回の学科目表の拡充、改訂を重ねてきました。現行の主要専門科目の構成は、商学系13科



目、経営学16科目、会計学系14科目です。設置された当時の学科目表と比べ、経営学を共通の概念とする構成になっており、従来の商学という概念で包括するよりも、3つの系に共通な概念となっている経営学という概念で全体を統括するほうが、実状に適しているものです。経営学という概念は、商業経営、企業経営にかかわらず、また、営利、非営利にかかわらず、一組織体としての経営として一般化でき、経営活動の数的把握である会計学をも学問的に包括できるものであります。さらに、社会的に定着している名称であり、シンプルで理解しやすい名称であり、わかりやすい名前でもあります。

今回の改称では、学科目表・内容の変更はありません。今後も商学科は、高齢化を迎え、急速に国際化・高度情報化と大きな変化をとげている時代と市民社会に対応した改革を進めていきます。

なお、本学科では来年度の新入生からノート型パソコンを安価で購入してもらい、多くの講義・演習で使いながら授業を進めていきます。

スウェーデンを知りたいなら法学部へ

スウェーデンという国は、日本の進むべき道を論じる際に、よく引き合いに出されます。例えば、超大国ではないがその地域の中では大国である国(日本も含まれます)の外交政策の実際例として言及されるほか、最近では日本でも普通になった「連立政権」の実際の運用の好例として、また、福祉政策や男女平等の先進国として、さらには日本でも急速に進行しつつある「少子化」の問題をある程度克服した国としても、よく知られています。

要するに、先進諸国が直面する問題を、日本よりも早く経験し、かなりの程度まで(しかも比較的穏

やかな方法で)のり切ってきた国なのです。スウェーデンという国が日本で注目されているのも不思議ではありません。

実は、法学部には、スウェーデンの専門家が、外交政策、国内政治、地方自治の分野のそれぞれ1名ずつ、合計3名もいるのです。本学は東北における「私学の雄」として知られていますが、その言い方にならえば、法学部は「スウェーデン研究の雄」と言えるかもしれません。したがって、「東北地方でスウェーデンのことを勉強したいなら、東北学院大学法学部へ」と言っても、決して言いすぎにはならないでしょう。

21世紀を担う工学技術者をめざして

工学部では、新たなる世紀に活躍する人材を育てるために、正規の講義や実習の他に種々の活動を行っています。40以上もの課外活動サークルが学生たちのキャンパスライフの充実に欠かせない団体として活動しています。7月31日から8月1日にかけて、これらの団体リーダー研修会を遠刈田において開催しました。工学部長から、「わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい」というパウロの言葉を覚えて、「この研修会に集った皆さんは他の学生たちの模範となるよう努力してほしい」と励まされました。

科学技術の視野を広めようと、7月16日には東京大学の藤森敦教授をお招きし、「光電子分光で見た高温超伝導と巨大磁気抵抗」という題目で最新の光電子分光法の応用研究とその現状を紹介していただき

ました。学生たちからも活発な質問があり、最先端技術の一端をかいま見ることができました。

AO入試の実施を契機に、昨年より実施されているオープンキャンパスは、8月3日に開催されました。工学部には昨年を超える約400人の高校生や父母の皆さんが訪れ、21世紀の教育をめざして改革が進められている工学部教育の実態に触れていただきました。特にIT化への波に対応した情報教育の充実や環境工学の実験などに大きな関心が寄せられました。

今年も韓国の大仏(デブル)大学工学部から3名の助教授と3名の学部学生が7月の暑い盛り of 2週間、学生実習と共同研究のために来学されました。最も近い国の若い研究者たちの心意気に教育を施す側も受ける側も刺激を受け、励みとなりました。

情報科学専攻からの発信

情報科学専攻では、今年度の入学生から、ノートパソコンを購入してもらい、専攻専門の科目で実習・予習・復習をしています。このために情報接続装置を備えた教室を用意しました。カリキュラムも改定して、リテラシ=コンピュータの読み書きに限定せず情報科学の基本から学びなおすことになりました。半年度完結の科目をつくり、特に一年の前期にコンピュータに対する基礎の基礎を身につけるため、実習時間も大幅に増加しました。来年度はコンピュータ科学専門の教員2名の新規採用を予定しています。

教養学部の一専攻として、人間科学専攻、言語科学専攻(来年4月より言語文化専攻に改称)の視野から

も学んで、単なるコンピュータのハードやソフトなどという技術を習得するだけでなく、全人的教養教育の一環としての情報との付き合い方を身につけてもらいたいと願っています。社会に出たときに一般の方々の新しい情報機器への要望などをくみ取れるコミュニケーションの能力をも養いたいと思います。

コンピュータ科学・自然科学・数学のスタッフの協力によるIT=情報技術に限定されない広義の情報科学という姿勢を確立することも目標の一つです。日本は技術立国という立場で世界に貢献してきたのですが、その伝統を守りつつ、21世紀には情報科学の立場を加味して進む人材を送り出したいと考えています。

特色ある研究

研究紹介



エトルスキ民族の歴史と文化

文学部教授 平田隆一

紀元前9世紀以降、イタリア中央部のエトルリア地方を本拠地としてエトルスキと呼ばれる民族が活躍しました。彼らは各地に都市国家を築き、ギリシア文化を吸収しながら前7・6世紀に最盛期を迎え、周辺の諸民族を文明化しました。中でもローマは、エトルスキ系の王たちの治世(前7世紀末～6世紀末)に都市国家を形成・確立しました。エトルスキの歴史と文化については、日本では本格的な研究がほとんど行われていません。私の主たる研究課題は、この民族の歴史と文化の諸相、そのギリシア・ローマとの政治的・軍事的・文化的関係を解明することです。

老人ホームのマネジメント

経済学部教授 岡田耕一郎

平成12年度から介護保険が実施され、利用者が介護サービス提供施設を選択できるようになり、他方、利用者の獲得を巡って施設間で競争が生じるようになりました。私の研究室では、この競争環境下で、サービス組織が質の高い介護サービスを安定して提供できるような組織および管理手法の研究を行っています。より現場に密着した業務のリストラクチャリングを中心に、持続的競争優位性の獲得のための組織変革等に焦点を合わせています。

平和を科学する

法学部教授 塩屋 保

私が専門とする「平和学」は、戦争の原因を科学的に研究し、平和の条件を明らかにすることを目的とする学問です。医学が病気の原因を科学的に究明し、人間の健康に寄与することを目的としているのと似ています。そこでは平和は、たんに戦争のない状態(「消極的平和」)ではなく、社会的抑圧・差別が存在しない状態(「積極的平和」)をも意味します。冷戦が終わり核戦争の脅威が後退した今、国内外に様々な形で顕在化してきている「南北問題」こそが、最大の研究課題です。

ボルネオ島諸民族からの文化人類学的研究

教養学部助教授 津上 誠

文化人類学者は特定民族と暮らし、言語、社会組織、経済、宗教などの異文化理解を試みます。異文化理解は、ふだん疑わず気にも留めていなかった自文化の「発見」と同時に成立するため、日本や西欧近代の特殊性を自覚させ、人間とは何かを考えるヒントを与えます。ボルネオ島奥地の「家族と身内」や「交換」には、そんな「発見」につながるものがあります。これらについて、他地域の民族誌も検討しながら、現地調査を重ねています。

COLUMN WELL

工学部で日本学術振興会『未来開拓学術研究推進事業』がスタート

この事業は、21世紀を展望し、地球規模の問題の解決、経済・社会の発展、豊かな国民生活の実現等をめざし、わが国の未来の開拓につながる創造性豊かな学術研究を大学主導により重点的に推進することを目的としています。今回分担協力する研究分野は、「電磁波の雑音レベルの低減」というテーマで、平成11年度より5年間継続する予

定です。この中には、4つのプロジェクトが展開され、その中の一つ「不要電磁波の発生および伝搬メカニズムの解明」というプロジェクトを本学が中心となって担当することになりました。プロジェクトメンバーとして、本学工学部電気工学科の越後宏教授、大沼孝一教授、塩川孝泰教授、嶺岸茂樹教授、大場佳文講師の5名のほか、他大学の

教官2名が参加しています。研究内容は、通信を妨げる電波の発生メカニズムを解明すること、発生した波がどのように伝搬するかを明らかにすること、不要電磁波のシミュレーションと疑似雑音の発生法を探究すること、これらの結果から有効な電磁波レベル低減技術を確立することなどです。

すべての学生のためのよろず相談所をめざして —カウンセリング・センター

本学カウンセリング・センターは、東北学院大学に籍を置く学生の相談に応じるための機関として、昭和53年に現在の体制が整えられました。12名の兼任カウンセラー（各学部教員）と嘱託精神科医が、それぞれの専門領域を生かして幅広く「よろず相談」にあたっています。土樋および泉キャンパスには、複数の面談室を備えたセンターに受付職員が常勤しており、多賀城キャンパスでは宗教部副部長室が窓口となっています。最近ますます相談件数が増える傾向にあり、学生の父母からの相談も目立ってきています。

センターでは、毎日の相談業務やカウンセラー相互の研修会などの他に、年報とセンター便り（年3回）を発行し、年2回の後援会を開催しています。秋季講演会は無料で一般の方々にも公開されます（COLUMN WELLの欄をご参照ください）。多数の皆様のご来聴をお待ちしております。

問い合わせ先 土樋キャンパス カウンセリング・センター
TEL. 022-264-6410



教育・管理棟(8号館)の竣工

学長 倉松 功



この度の教育・管理棟(8号館)は、一般教室、情報教室と学生生活の諸側面へのサービスを総括的に行う事務室とともに、教授会、講演会、国際会議などに用いられる予定です。すなわち、グローバル化の一層進む21世紀を生きる学生諸君のために、また研究の促進、地域への貢献などに用いられるものです。なお、最上階には、一般の方にも親しんでいただける宗教絵画を掲げました。それは、真善美を支える本学の宗教を象徴するものです。

土樋キャンパスの整備が具体的に検討されはじめて、5年以上の年月を経ました。この間の理事会の適切な諸決定、大学内各レベルでの各種の提案・調整と協力に、建設にあたられた各位に、改めて感謝の意を深くします。

この建物が神の御委託に応えるよう利用されることを切に願っています。

(日刊「建設新聞」に掲載)

COLUMN WELL

カウンセリング・センター主催 秋季公開講演会のご案内

日時:平成12年11月17日 14時20分～15時50分
場所:本学土樋キャンパス8号館 5階 狷川記念ホール
講演:「マインド・コントロールについて(仮題)」
静岡県立大学講師 西田公昭氏

どなたでも無料でお聞きいただけます。オウム事件でも活躍された社会心理学の専門家のお話を通して、身の回りのマインド・コントロールについて考えてみませんか。
問い合わせ先 カウンセリング・センター TEL.022-264-6410

南開大学(中国)との交流

南開大学は、中国屈指の重点総合大学で、北京の南西約120kmの天津市にあります。本学とは、1998年11月に「国際学術交流ならびに教育協力協定」を締結し、同大学歴史研究所長の南教授が最初の客員教授として昨年10月から半年間、本学に滞在されたことは記憶に新しいところです。

同大学には、故周恩来総理が第一期生として入学し、愛国運動の指導者として活躍したことは良く知られています。大学院と学部の各分野に多種多彩なコースが開設され、世界各国と活発な国際交流が展開されています。

南開大学

侯自新(コウジシン)学長からのメッセージ

On the occasion of the forthcoming anniversary of the founding of Tohoku the predecessor of Tohoku Gakuin University, I, on behalf of Nankai University and my own name, have the pleasure and honor of presenting this message in commemoration of this great occasion and sending my congratulations and compliments to President Dr. Isao Kuramatsu, his distinguished colleagues and our friends in your institution. I appreciate very much the achievements of your faculty and students, and the efforts of your generation, who have made in their unremittent endeavors to devote themselves to educational development and scientific progress over the past century.

I am pleased to see that our academic linkage and exchanges have strengthened since the establishment of intercampus relationship between our institutions in 1998. I sincerely hope that our friendly relationship and academic cooperation and exchange will further develop with our joint efforts in the years to come.

I wish your university prosperity!

東北学院大学におかれましては、その前身である東北学院創立114周年を迎えられます。この記念すべき折にあたり、南開大学を代表し、私の名前でここにお祝いの言葉をお送りすることは、喜ばしく光栄なことです。倉松功学長をはじめ、貴大学の教職員、私たちの友人の皆様、心からの祝辞を送らせていただきます。

貴大学におかれましては、教職員および学生の皆様、絶え間ない努力を代々引き継ぎ、過ぐる世紀にわたり、教育の発展と科学の進歩のために尽くしてこられたことを私は高く評価いたしております。

1998年に、私たち二つの大学間に交流関係ができましたが、それ以来相互のきずなと交流が強固なものになってきているのを知り、嬉しく存じております。友好関係と学術協力および交流が、私たちの協力によって、今後何年もの間ますます発展するように切に望むものであります。

貴大学が、ますます発展されることをお祈りいたします。

国際交流協定校

- Bilateral College アーサイナス大学(アメリカ)
- Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)
- Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)
- Pyongtaek University 平澤大学(韓国)
- Nankai University 南開大学(中国)
- University of Durham ダラム大学(ギリス)
- University of Ulster アルスター大学(ギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務室
TEL 022-264-6425/6404
E-mail: IC0@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp



本学所蔵 アダム・スミス『国富論』初版

アダム・スミス(1723 - 90)は、1773年4月、『国富論』刊行のため原稿を携えてロンドンに向かいました。長期の研究生活によって極度に健康を害していた彼は、親友のティヴィド・ヒュームを遺言執行人に定め、あとのことを依頼しての出発でした。(実際には、スミスは1790年まで生きるが、ヒュームは1776年に『国富論』刊行後、半年たって病気でなくなった。)ロンドンでさらに研究を続け、ついに1776年3月9日、『国富論』 正確には『諸国民の富の性質と諸原因についての一研究』は公刊されました。アメリカ独立宣言の4か月前、まさに新しい時代の夜明けを告げる歴史的な書物の誕生でした。1759年公刊の『道徳感情論』の末尾に『国富論』刊行の決意を語ってから完成までに18年、文字どおり命がけで書き上げた著書でした。体裁は、四折判の大型二巻本、「序文」も「索引」もついておらず、全編の「目次」は、第一巻の巻頭にまとめられています。著者名は、「法学博士、王立教会会員、前グラスゴウ大学道徳哲学教授、アダム・スミス」となっています。出版社は、ロンドンのストラーンとカデルで、定価は1ポンド16シリングでした。約千部出版されましたが、半年で売り切れ、出版社を驚かせました。スミスの生前中、第五版まで出版されています。また、ドイツ語(1778年)、フランス語(1779年)、デンマーク語(1780年)に翻訳されました。最初の日本語訳は、明治10年代石川暎作によって『国富論』として着手され、明治21年に石川と嵯峨正作によって完成されました。『国富論』は、スミスがグラスゴウ大学で講義した道徳哲学の一部分を発展させ

たものです。彼の道徳哲学は、第一部自然神学、第二部倫理学、第三部法学(正義論)、第四部経済学(便宜論)から成り立っていました。スミス生前の著書は、第二部倫理学に相当する『道徳感情論』と第四部経済学に相当する『国富論』だけです。スミスは、『道徳感情論』において、人間行為の道徳的判断の原理を同感(sympathy)に求め、利己的個々人がいかにして社会を形成するかという市民社会の自律性の把握を主題としましたが、『国富論』では以上のような社会認識を前提に、利己的個々人の集合が客観的な経済秩序をもつことを発見しました。個々人の利己的行為が、社会全体の繁栄を導くという有名な「見えざる手」の思想は、個々人の動機の世界とは異なる客観的な経済秩序の存することを意味していたのです。経済秩序の発見と解明こそが『国富論』の課題でした。全五編からなる『国富論』は、第一編・第二編が資本主義社会の経済法則にあてられた理論部分であり、科学としての経済学の誕生を意味しています。第三編は歴史批判、第四編は重商主義・重農主義批判、第五編は国家・財政論となっています。

問い合わせ先 図書館事務室
TEL.022-264-6491



COLUMN WELL

開かれた研究機関をめざして

法学政治学研究所

法学政治学研究所では、毎年春に学術講演会、秋には公開講座を開催しています。本年度の学術講演会は、桜美林大学大学院教授(元朝日新聞編集委員)の石川眞澄氏を招き、『日本政治の現在を観る』という演題で5月25日に開催されました。研究所員による公開講座は『市民生活と法』という共通テーマで11月13日から17日までに実施される予定です。研究所の各種行事には、学生はもちろん、一般市民の方々にもふるってご参加していただきたいと思ひます。

公開学術講演会を開催

東北文化研究所

本研究所では、毎年秋に公開学術講演会を開催しています。昨年は、11月24日に、元千葉大学教授の江守五夫氏に「人類学からみた東北日本」というテーマで、東北地方の文化的特色を、日本列島の中の東西文化の比較、あるいは東北アジアとの関連など、広い視野からご講演をいただきました。そして本年度は、10月6日に、京都大学大学院教授の島田周平氏をお招きし、「リスク社会と農民 飢饉を乗り越えるアフリカ社会に学ぶ」という題でお話をいただきました。かつて冷害で飢饉を経験したことのある東北地方にとって、特に学ぶことの多いテーマでした。

就職部より

Placement Info.



学生の二極化と対策

厳しい就職戦線にかかわらず、「今年の学生からの反応が鈍い」という企業側の声が多いと聞きます。精力的に活動する学生と就職意欲をなくしている学生の二極化傾向は続いており、『フリーター』という言葉への抵抗感は少ないといえます。6月末に『労働白書』が発表され、特に若年層の定職を持たずにアルバイトなどで暮らす『フリーター』の実態や意識を初めて分析しています。1997年には151万人と、5年間で50万人も急増していること、昨年末には未就職者を含め大学新卒者の23%を占めるに至ったこと、若年層の職業に対する目的意識の希薄化などが背景にあるものの定職志向が強いことなどの現状を分析しています。

就職部では、就職ガイダンスなどを通して、学生の自立を促し、就職活動継続中の学生には、どんなにハードルが高くても、もう一度自分を見つめなおし、欠点を補い、果敢に挑戦して欲しいと願っています。本学への企業の求人情報は数多くよせられています。決して諦めず、『フリーター』の道を選ぶことのないように、積極的な活動を呼びかけ、悔いのない就職と納得のいく内定が得られるよう、個々の学生の来談に応じ、激励しています。

問い合わせ先 就職課

TEL. 022-264-6481

入試センターより

Admissions Info.



A0入試(第I期)はじまる

A0入試(第I期)第一次選抜への出願が8月31日からはじまっています。9月27日までの出願数は次のとおりです。(カッコ内は募集定員)

文学部 英文・昼(30)98名 英文・夜(3)4名
キリスト教(21)1名 史(20)93名
経済学部 経済・昼(45)129名 経済・夜(5)5名
経営・昼(23)97名 経営・夜(2)3名
法学部 法律(35)67名
教養学部 人間科学(5)40名 言語文化(5)24名
情報科学(4)19名
工学部 機械工(10)39名 電気工(10)23名
応用物理(6)12名 土木工(10)20名

出願は10月18日までです。第一次選抜でA・B・Cの評価をうけた方は第二次選抜に出願できます。第二次選抜は11月22日に行われ、最終的な合格発表は12月1日です。また、A0入試(第I期)第一次選抜への出願期間は、11月30日から12月6日までです。

問い合わせ先 入試センター事務室

TEL. 022-264-6455



学校法人 東北学院

東北学院大学

土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科
学部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)
文学部二部、経済学部二部
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL022-264-6421 FAX022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院：工学研究科
学部：工学部
〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号
TEL022-368-1116 FAX022-368-7070

泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科
学部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL022-375-1121 FAX022-375-4040

東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
TEL022-227-1221(代) FAX022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL022-372-6611(代) FAX022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL022-368-8600(代) FAX022-309-2655

οργανοζ

—ウーラノス—

東北学院大学 広報誌 Vol.5

東北学院大学設置50周年記念事業

大学広報誌発行小委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井 洋洋
編集長	宗教部長	佐々木 哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『οργανοζ』(ウーラノス)に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成12(2000)年10月20日

編集 東北学院大学
設置50周年記念事業
大学広報誌発行小委員会

発行 東北学院大学
設置50周年記念事業
実施委員会

〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL022-264-6424 FAX022-264-3030
http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

印刷 (株)エイエイピー